

こんなこと
やってるよ!

活動紹介

浅間山系ミヤマシロチョウの会

かつて「シナノシロチョウ」とも呼ばれた、信州を代表する高山蝶ミヤマシロチョウは、高度成長期の乱開発や生息環境変化の影響を受けて絶滅に瀕しています。

有名な生息地であった美ヶ原や入笠山ではほとんど見られなくなり、浅間山系でも生息地が湯の丸高原の一部に減少してしまったため、何とか絶滅を避けたいとの思いから、平成22年5月に「浅間山系ミヤマシロチョウの会」が設立され、活動が始まりました。

ミヤマシロチョウは、通常1,700m前後の溪流沿いや牧場などの草原～灌木帯環境を好みますが、湯の丸高原では「高山蝶らしく」標高2,000mの山頂部付近に生息しており、ヒロハヘビノボラズとメギの葉を食べて育ち、7月に成虫になって高原を悠然と滑空してはアザミやクガイソウなどの花々を次々と訪れる様子は、信州の爽やかな高原の雰囲気と相俟って、心癒されるものがあります。

本会では、環境省、森林管理署、長野・群馬両県、東御市、嬬恋村などの関係機関や関係団体と連携して、ミヤマシロチョウの生息状況や生態調査を行いながら、生息環境の保全、改善や密猟防止のためのパトロール並びに市民への

啓発活動を始めています。浅間山系でミヤマシロチョウやミヤマモンキチョウなどの高山蝶、そしてアツモリソウなどの花々がいつまでも見られるよう願って保全活動をしています。(清水 敏道)



連絡先

浅間山系ミヤマシロチョウの会

事務局 東御市教育委員会教育課文化財係

〒389-0592 長野県東御市 281 番地 2

電話 0268-62-1111

こんな本みつけた!

読書案内

J.ベアード・キャリコット 『地球の洞察 多文化時代の環境哲学』

みすず書房 2009年 本文516頁+索引・注 6,600円+税

COP10では生物多様性条約に加盟する百数十もの国が多く、文書に合意しました(右コラム参照)。科学的データや議長国である日本政府の努力だけでは、合意が成立した理由の説明として不十分です。各国の歴史や文化は多様で、経済的利害の対立もあるからです。合意の背景には、各国が立場のちがいににもかかわらず環境の価値についてある程度考え方を共有していたことがあるはずで

本書の著者は著名な環境倫理学者です。序論で著者は、「倫理」を行為の自由に制限を課すものとした上で、自由に対する最も重大な制限は法律などに成文化される、法の基礎には倫理があると議論を進めます。次に世界の伝統的な環境倫理(宗教・哲学)を比較し、それらの伝統と現代の生態学的環境倫理との関係について考えます。西洋・インド・中国・日本・オセアニア・南北アメリカ・アフリカと7つの章にわたって世界の伝統的環境倫理をたどる部分は、さながら人類の歴史の旅です。そして地球を救う手段のうち最も力強く資源に富むのが、これらの伝統の集積であると結論づけます。

本書はきわめて現代的なテーマをあつかっています。

COP10のような国際交渉の深層で、また生物多様性のそれぞれの現場で、何がひとびとを動かしているのか。このことを考える上で、本書は強力な水先案内人になってくれるのではないのでしょうか。(紹介者:須賀 文)

